

教育センター

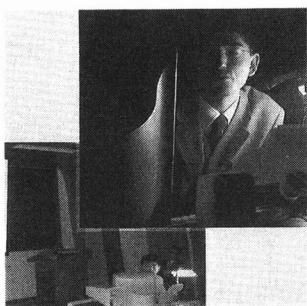
佐藤 寅記 長期研究員

子どもたちの「生きる力」としての学力を「他の児童生徒や教師等との様々なかかわりの中で自己改革・自己実現を図ること」ととらえ、対人関係での体験不足や希薄化という現実を乗り越え、人間関係をつくる力を育成するための指導援助の在り方について発表されました。

【第三分科会】

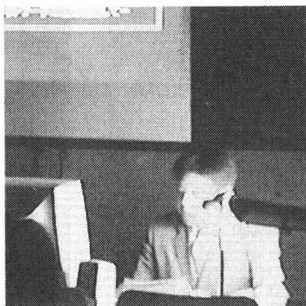
情報教育

情報の収集力及びその活用力は21世紀を生きぬくために欠かせないと言われていることもあり、コンピュータ活用への関心は年々高まる一方です。今年も、インターネットを初め、見事な発表が繰り広げられ、充実した分科会となりました。



会津若松市立城西小学校

(代表) 佐藤 秀一 教諭



郡山市立郡山第七中学校

伊藤 恒明 教諭

コンピュータに対する消極的な意識を変えようとして取り組んだ実践の報告でした。コンピュータの基本的な使い方を段階的にとらえられるよう「マルチ学年指導案」を作成する一方、インターネットやテレビ会議システムを各教科学習の中で活用するよう工夫したことが発表されました。

問題を発見し解決していく過程で必要な情報の収集、判断、処理、発信などを体験することが学習意欲を喚起し、主体的な学習活動が期待できるとの考えに立ち、ネットワークを活用した学習活動を通して主体性を高めている授業実践の様子が発表されました。

福島県立清陵情報高等学校

本田 文一 実習講師

最新のテクノロジーを身に付けた人材を社会に送り出すことを根底におき、「インテリジェントスクール構想」に立った取り組みにより、生徒たちが主体的にコンピュータを活用して学習成果を上げている様子が発表されました。課外活動や校務処理にもネットワークが活用されているとの紹介がありました。

教育センター

星 善樹 長期研究員

小野崎卓也 長期研究員

鹿俣 和子 実習教諭

小学校社会科の学習ソフトとしての「データ変更・追加可能な授業用ソフトウェア」、生徒名簿のデータベース化を想定して作成された「ネットワーク上におけるデータベース運用操作の簡易化」、調査対象のみがアクセスでき、しかも受信したことを自動的に送信者に返信する「自動メール返信機能付アンケート集計システム」という、3つの発表がありました。